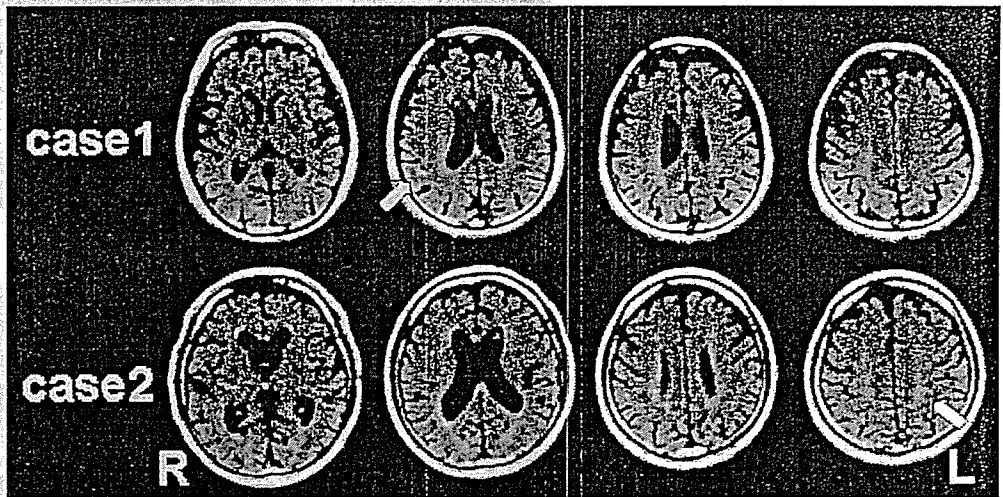


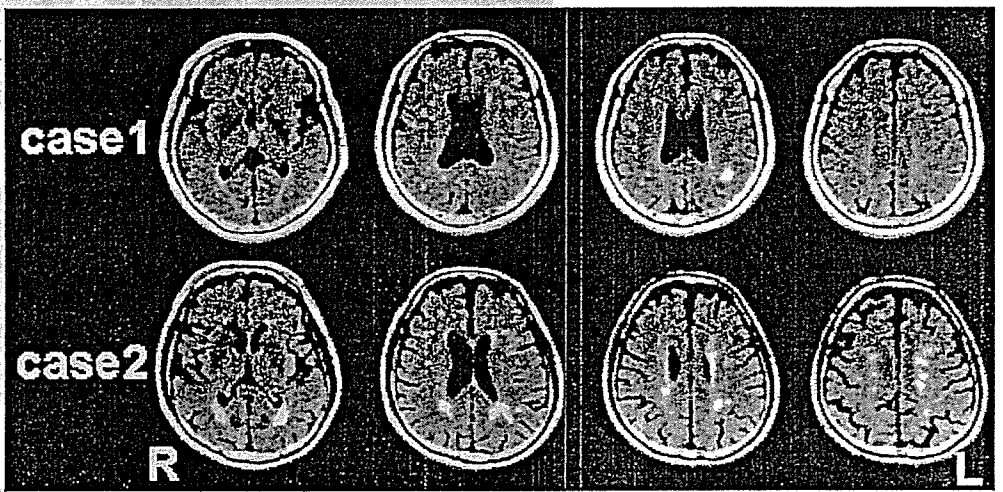
白質病変のグレード分けサンプル

Grade 1: 白質病変を認めない例(画像なし)

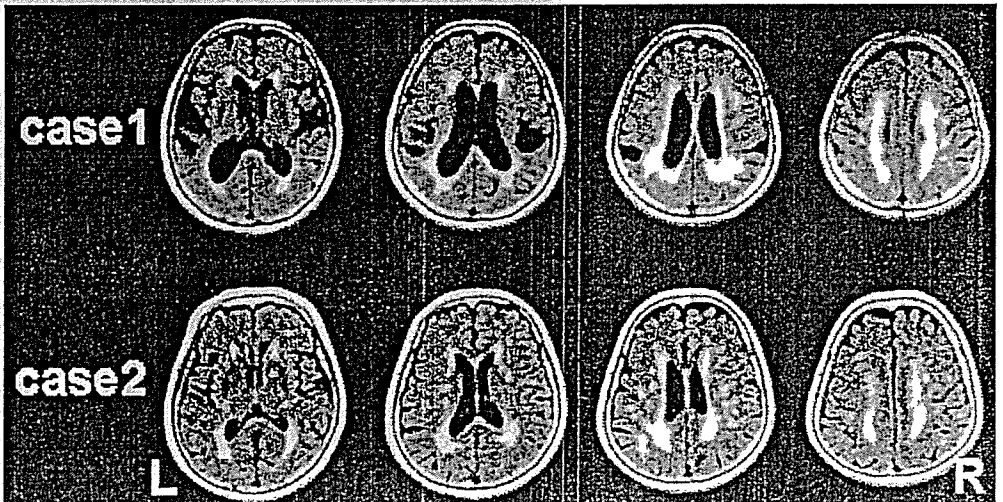
Grade 2



Grade 3



Grade 4



SEAD-Japan

Study on Diagnosis of early Alzheimer's disease - Japan

ご挨拶

高齢化社会の進展にともなって、認知症の増加が社会問題となっています。物忘れで来院される方には、年齢相応の物忘れにとどまる人（良性健忘と言います）と、認知症に進展してしまう人がいる事がこれまでの研究でわかってきました。早い段階で良性健忘と認知症に進展する人を診断できれば、早期からの適切な治療および医療介護の計画的実施が可能となります。

認知症では、脳の形態に目立った変化がみられないにも関わらず、脳の一部の糖代謝が低下することが判ってきており、糖代謝をみるFDG-PET検査が認知症の早期診断に役立つかどうか、注目されています。

そこで、平成17年11月から軽度認知障害 (Mild cognitive impairment: MCI) と診断された方を対象とした長寿科学総合研究事業「MCIを対象とするアルツハイマー病の早期診断に関する多施設共同研究 (SEAD-Japan)」が始まりました。この調査研究は、厚生労働科学研究費補助金の援助を受けて、全国約10の病院で、軽度認知障害の患者様を対象として、認知症の早期診断にFDG-PET検査およびMRI検査や神経心理検査が役立つかどうか調べることを目的としています。このためには、一人でも多くの患者様に、画像検査や神経心理検査を含めて健康状態を継続して診断させていただき、資料を蓄積する事が大切になります。

本ホームページではSEAD-Japanの概要その他を紹介しておりますのでご参考にしていただければ幸いです。

研究代表者：伊藤健吾（国立長寿医療センター研究所長寿脳科学研究部長）

お問い合わせ

SEAD-Japan事務局

〒474-8522 愛知県大府市森岡町源吾36-3
国立長寿医療センター・研究所
長寿脳科学研究部内

TEL 0562-46-2311(内線 5211)
FAX 0562-44-6596
E-mail sead-admin@umin.ac.jp

00286